

株式会社ソフトウェアクレイドル



設計・開発の期間を短縮し、性能や付加価値の向上にしのぎを削る製造業。ソフトウェアクレイドルは、同社ソフトのクラウドサービスを拡充し、そのニーズにより広く応えとともに、人体の病理解析といったあらたな分野での活用も広げている。

クラウドサービスで利便性を向上 脳内血流の解析など用途も広がる

株式会社ソフトウェアクレイドル
代表取締役

駒田一郎氏

Ichiro Komada

グローバルに激しい競争を繰り広げる製造業では、コンピュータ上で設計とシミュレーションを実行し、開発の短期化・効率化を追求している。ソフトウェアクレイドルは、その実現を支援するCFD(Computational Fluid Dynamics)と呼ばれる熱流体解析ソフトウェアを開発・販売してきた。実際に試作品を作製することなく、科学計算によって、気体や液体の流れ、熱の伝搬などがシミュレートできる。

しかし、こうした科学計算は複雑で膨大な処理を行うため、高い性能のコンピュータを利用するほど有利となる。そこでソフトウェアクレイドルでは、クラウドサービスの拡充を進めている。必要な時に必要な分だけ、インターネットを通じてコンピュータやソフトウェアなどを利用できるクラウドサービスは、「開発プロジェクトを立ち上

げた場合など一時的に利用を増やしたり、計算の負荷が高い精緻な解析や大規模で幾通りもあるシミュレーションを短時間で行ったりする場合に有効です」と、代表取締役の駒田一郎氏は説明する。

2014年9月には、計3社目となる富士通から同社のクラウドサービス「TCクラウド」で、ソフトウェアクレイドルのCFD製品「STREAM®」と「SCRYU/Tetra®」、「CADthru®」が利用できるようになった。年度内には4社目からクラウドサービスが提供され、さらに5社目も予定されている。

また、富士通のTCクラウドでは、日額での利用料の支払いが可能となっており、コスト的にもハードルが低くなる。そのほかのクラウドサービスでも、日額などの従量課金を導入していく予定だ。

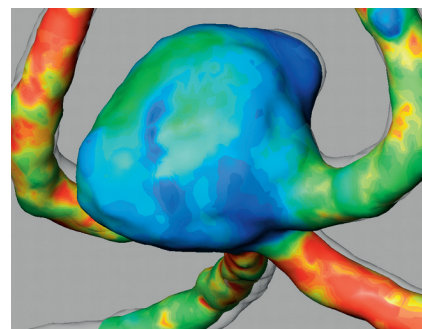
人体も対象として流れを解析 製造業にとどまらない利用分野

一方で、生体内の挙動を把握するために、医療の現場でもCFDの利用が進む。東京大学医学部附属病院では、脳内の血管の血流をシミュレートし、病変の発生や進行の予測、手術前の事前評価に役立て始めている。

この分野でもクラウドサービスが活躍しそうだ。一般的な医療機関では、施設内に大型コンピュータを設置している場合が少ないためだ。「グラフィックアクセラレータを併せれば、クラウド上の膨大な解析データをリモートで描画しつつ扱えます」と(駒田氏)という。

CFDの分野で30年培ってきた実績とサポート体制も強みとして、ソフトウェアクレイドルはあらたなニーズと分野を切り開いていく。

CFDで計算した動脈瘤壁に作用するせん断応力
(東京大学脳神経外科提供)



ソフトウェアクレイドルの製品が利用できるクラウドサービス

	NEC「HPC OnLine」	計算科学振興財団「FOCUS」	富士通「TCクラウド」
ソフトウェア名	STREAM, SCRYU/Tetra	STREAM, SCRYU/Tetra	STREAM, SCRYU/Tetra, CADthru
機能モジュール	Solver	Solver	Solver, Preprocessor, Postprocessor

株式会社ソフトウェアクレイドル

〒530-0001 大阪市北区梅田3-4-5 毎日インテシオ
TEL: 06-6343-5641 <http://www.cradle.co.jp/>